

Round 3

レースレポート

■開催概要

- 大会名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round3
- 主催 : 名古屋レーシングクラブ(NRC)、関西スポーツカークラブ(KSCC)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力 : ARC、AASC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会(FEクラス)
- 競技 : JAF公認 準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/172台
 - スーパーFJ.....28台
 - FIT 1.5 Challenge Cup.....21台
 - フォーミュラEnjoy.....25台
 - MEC120.....58台 (VITA-01/34台、v.Granz/24台)
 - Formula Regional Japanese Championship 2025 Round3.....11台
 - マツダファン・サーキットトライアル(MFCT).....29台
- 開催日 : 2025年7月12日(土)・13日(日)
- 天候・路面 : 12日(土)晴/ドライ 13日(日)晴/ドライ



★レースリザルトは
ウェブサイトでご覧いただけます
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round4
- 開催日 : 2025年10月4日(土)・5日(日)
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ、VITA、v.Granz、フォーミュラEnjoy、GR86/BRZ Cup、Porsche Sprint Challenge Japan (PSCJ)



合計58台が参戦したMEC120、VITA-01とv.Granzの混走でレースは行われた

耐久レース「MEC120」に58台が参戦。 真夏の鈴鹿サーキットでバトルを愉しんだ。

鈴鹿クラブマンレースから、名称を一新した「SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round3」が7月12日(土)、13日(日)の2日間の日程で開催された。

12日(土)には、各クラスの公式予選のほか、「フォーミュラリージョナルジャパニーズチャンピオンシップ 2025 第3戦」のレース6を実施。さらに同日には、JAF公認タイムアタック競技である「マツダファン・サーキットトライアル特別戦 ロードスター・ノックアウト」も行われた。昨年、参加車種をロードスターに限定して、筑波サーキットで初開催された特別戦が鈴鹿で初開催とあって、多くのマツダファンがサーキットでのドライビングを愉しんだ。

そして、真夏の鈴鹿サーキットで恒例となった「MEC120」が今年も開催された。VITA-01とv.Granzの2クラス、それぞれ「Pro-Ama」、「Ama-Ama」のカテゴリーに分かれて実施。120分のレース中、2回のピットインが義務化されていて、給油やドライバー交代のタイミングも勝敗を左右する白熱の耐久レースに、多くのギャラリーが声援を送っていた。

シリーズ全5戦で争われる今季の「SUZUKA CHAMPION CUP RACE」。今回までで3戦を消化し、シーズンも折り返しとなる次回「Round 4」は、10月4日(土)・5日(日)の2日間の日程で開催される。残りが2戦となることで、そろそろタイトルの行方も気になるところ。各レースともチームやドライバーの思惑が入り乱れる、気合の入ったレース展開に期待したい。



MEC120のv.Granz Pro-Amaクラスで優勝したOOKA／澤圭太。写真は第1ドライバーのOOKA選手

Round 3

レースレポート

■フォーミュラEnjoy

ポールポジションをゲットしたのは樋尻勝利。2番グリッドは鈴鹿・岡山の各ラウンドで3連勝中の吉田英翔、続いて中島一郎が並ぶ。マイスターズ・カップのトップは7番グリッドの安田知弘だ。ホールショットを奪ったのは吉田。中島が2番手、樋尻は3番手になる。

1周目、コースアウトしたマシンがありセーフティカーが導入される。4周目でセーフティカーランが解除され、吉田、中島、樋尻、松平如水が先頭集団を作る。中島は吉田をパスしてトップへ。中島、吉田、樋尻のトップ争いが激しい。6周目で吉田がトップへ。再び中島がトップに返り咲き、吉田とのバトルが白熱する。7周目で中島は痛恨のコースアウトで順位を下げると、樋尻がトップへ。だが、フィナルラップで吉田は逆転してトップへ。勝利は吉田、樋尻、マイスターズ・カップの安田は総合3位でフィニッシュした。



2番グリッドから優勝を果たした吉田英翔。今シーズン負けなしの4連勝を飾った



優勝したのは吉田英翔。2位は樋尻勝利、3位は安田知弘となった

Round 3

レースレポート

■フォーミュラEnjoy_マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップの表彰式。クラス優勝は安田知弘。2位に前田公孝、3位にジョニー小倉となった

レースレポート

■スーパーFJ 第3戦

ポールポジションは箕浦稜己、2番グリッドは五十嵐文太郎、ジェントルマンクラスのトップは総合22番手の山根一人でレースはスタートする。

箕浦が順当にトップに立つと、五十嵐、西田光来、酒井翔太が続く。総合21番手の古里拓がジェントルマンクラスの先頭を走ると、箕浦、酒井、五十嵐のトップ3台はそれぞれ単独になる。7周目、2コーナーで西田、五十嵐が接触してしまいセーフティカーが導入される。セーフティカーが解除されると、酒井、吉田の猛追を抑えた箕浦がトップチェッカーを受けるが、レース後に最低重量違反となり失格。これにより優勝は酒井、吉田、3位に八巻渉。ジェントルマンクラスは総合17番手でチェッカーを受けた古里が優勝した。



28台が参戦して第3戦、第4戦と2レースを行ったスーパーFJ



トップチェッカーだった箕浦稜己(写真中)は無念の失格。暫定表彰で2位に立った酒井翔太が優勝となった※最終順位は正式結果をご確認ください

■スーパーFJ第3戦_ジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスの優勝は古里拓(写真右)。2位に山根一人(写真左)、3位は上吹越哲也だった

レースレポート

■Formula Regional Japanese Championship 2025 第3戦 Race6-7

7月12日(土)、13日(日)の両日、各1戦ずつ行われたフォーミュラリージョナル ジャパニーズチャンピオンシップ。12日(土)に行われたレース6は優勝がト部和久、最終ラップの大波乱で順位が入れ替わった2位には大宮賢人が入り、3位は小田優の最終結果となった。翌13日(日)のレース7では、梅垣清が追う鈴木斗輝哉、ト部らを寄せ付けず、終始危なげない走りを披露。梅垣は完勝と呼べる内容でトップチェッカーを決めている。



Formula Regional Japanese Championship 2025 第3戦には、全11台がエントリー



レース7の表彰式。優勝が梅垣清、2位に鈴木斗輝哉、3位はト部和久だった

Round 3

レースレポート

■MEC120【その1】

v.Granzの#23 DAISUKEがポールポジションからスタート。#19の眞鍋高大、#86の下野璃央と続く。スタート時の混乱を避けるため、少し遅れて後方からVITA-01がスタート。合計58台が参戦したが、スタート時に大きな混乱は見られなかった。

下野はすぐにトップに立つと、#22の富田星羅がテールtoノーズで追う。スタートから40分が経過する頃、#22の富田を先頭にして、セーフティカーが導入される。セーフティカーランが解除され、レースは折り返しを迎える頃、トップは#31の澤圭太、2番手に#51の塩津佑介、#86の永井歩夢が上位を形成する。



#23のDAISUKEをポールシッターとして120分の耐久レースがスタートした



上写真は、VITA-01のAma-Amaクラス仮表彰式。正式結果では、優勝が菊池靖／YOSHIO ISHIKAWA／川福健太組、2位は坂野貴毅／西尾光芳／三宅永泰組、3位には中里紀夫／大賀裕介組となった ※最終順位は正式結果をご確認ください

Round 3

レースレポート

■MEC120【その2】

総合トップをv.Granzの#31澤が快走するなか、VITA-01はトップが#105の谷川達也、#610の柴田優作、#333の徳升広平がトップ3を形成している。#51の塩津、#29の大崎達也がトップに立つ時間があったが、残り20分頃になるとトップを#31のOOKAが走行。レースは残り10分を切る頃、コース上で止まるマシンが複数台発生したことで、セーフティカーランになる。

このまま終了かにも思われたが、残り1周のタイミングでセーフティカーランが解除される。総合トップを走るv.GranzのPro-Ama、OOKA／澤圭太組は盤石とも言える状態でフィニッシュ。120分で41周を走り切ってトップチェッカーを受けた。



VITA-01のPro-Amaクラス優勝は上田裕司／徳升広平組、2位は齋藤隆／上野大哲／畔柳拓武組、3位表彰台は下垣和也／加藤正将／清水康友組だった



v.GranzのAma-Ama優勝は関正俊／河村直樹組、2位は大山正芳／橋本守生／浦田祐喜組、3位はGAMISAN／萬雲恒明／松井啓人

Round 3

レースレポート

■MEC120_v.Granz Pro-Ama



v.GranzのPro-Ama優勝はOOKA／澤圭太組。2位はDANZEL WAYTAN／塩津佑介組、3位には眞鍋高大／石川京侍／山下亮生となった

Round 3

レースレポート

■FIT 1.5 Challenge Cup

ポールポジションからスタートするのは貴島康博。2番グリッドに杉原悠太、さらに清水悠祐、西田拓矢、大社宥雅が続く。好スタートでホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの杉原だった。これを貴島、清水、西田が追う展開になる。

2周目の最終コーナーで清水は貴島をオーバーテイクして、2番手へ浮上する。6周目、杉原は変わらずにトップを走り続け、これに清水、貴島、西田と続き、上位陣に大きな変動はない。だが、トップを走る杉原にスタート違反ペナルティが課され、これにより優勝は清水、西田、貴島と続き、杉原は4位となった。



3番グリッドスタートから優勝を果たした清水悠祐



優勝は清水悠祐、2位に西田拓矢、3位の貴島康博が表彰台に立った

レースレポート

■スーパーFJ 第4戦

リバースグリッドが採用され、第3戦で6位だった土橋皇太がポールポジションからスタート。レースは4番グリッドスタートの八巻渉が鮮やかな好スタートを決めて2番手へ。土橋、八巻、五十嵐文太郎、吉田馨、酒井翔太といったドライバーが上位を形成する。レース4周目、五十嵐がトップに立った頃、セーフティカーが導入される。5周目でセーフティカーランは解除されると、その後、吉田は五十嵐をオーバーテイクしてトップへ。7周目、マシン同士のクラッシュにより赤旗が提示され、レース中断となる。酒井を先頭にして、レースはセーフティカーランで再スタート。レースは終盤で酒井をパスした吉田が優勝。ジェントルマンクラスは山根一人が優勝を果たした。



第3戦の結果を受け、第4戦では上位6台にリバースグリッドが採用された



赤旗も提示された波乱のレースを制した吉田馨。2位に五十嵐文太郎、3位は酒井翔太

■スーパーFJ第4戦_ジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスの優勝は総合17位の山根一人(写真左)。クラス2位は上吹越哲也、3位は古里拓(写真右)

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

MEC120 v.Granz (Pro-Ama) で優勝

OOKA / 澤圭太 組



OOKA選手(写真右)

「今日は私自身、ペースを抑え目に走って、澤さんにしっかりバトンを渡すことを心掛けました。結果が付いてきてよかった。鈴鹿で行うMEC120は過去にも表彰台に立っている得意なレース。年間チャンピオンを取れるように、残り2レースも結果を出したいですね」

澤圭太選手(写真左)

「金曜日にクラッシュしてしまったのですが、マシンをここまで戻してくれたチームの方に感謝です。徐々に私たち2人にマシンもフィットしてきて、良い状態でレースに臨むことができました。作戦も上手くいって、満足できるレースができたと思います。自分は最終戦が行われる富士スピードウェイがホームコース。ぜひ、そこでも優勝したいです」